

## 世界史 出題の意図

### 問題 I

世界史的な視野のなかで日露戦争を考えることができるか、問うものである。

### 問題 II

古典期アテネの歴史について基本的な事実に関する理解を確認するとともに、関連する史料を読解し、現代の社会情勢を踏まえて世界史を探究する思考力を問う。

### 問題 III

前漢時期に関する中国正史である『漢書』の記載を題材に、中国古代・中世における異民族地域に対する統治方法や、外戚の台頭をはじめとする前漢後期の政治状況に関する基本的な理解について問い、それらを踏まえた上で前漢後期の政局・経済状況について総合的に論述する力があるかどうかを問うものである。

### 問題 IV

18 世紀～19 世紀前半の中国と東南アジア諸国の歴史に関する基礎的な知識があるかどうか、および、問題文の内容を読み取り自分の持つ世界史の知識と連関させて説明できるかどうかを問うものである。

## 世界史 正解・解答例

### 問題Ⅰ <解答例>

イギリスから見て日露戦争は、世界的なイギリス・ロシアの対立構造のなかで起こった戦争であった。イギリスは、ロシアの極東進出を抑止しつつ、中国における自国の権益を保持するため日本に接近し、清国・韓国における日英両国の利益を相互承認する日英同盟を1902年に締結した。同盟によりイギリスの後ろ盾を得た日本とロシアとの戦争は、英露対立の代理戦争の側面があった。しかし、日露戦争の結果によって東アジアにおけるロシアの脅威が払拭されると、ドイツを共通の敵としてイギリスとロシアが接近し、英露協商が締結された。日露戦争を転機として、イギリス・フランス・ロシアの三国協商が成立し、ドイツ・オーストリア・イタリアの三国同盟に対抗する形で国際関係はイギリス・ドイツの対立軸へと移行した。(333字)

### 問題Ⅱ

#### 問1

前5世紀の初めに二度にわたるペルシア軍の侵攻を経験したギリシアの諸ポリスは、ペルシア軍のさらなる襲来に備えて攻守同盟（デロス同盟）を結成し、アテネがそのリーダーとなった。この同盟に参加したポリスの多くには、軍資金となる分担金（貢租）を納めることが義務づけられていたが、後にこの同盟の金庫がデロス島からアテネに移されると、同盟は実質的にアテネが支配する「帝国」へと変質していった。

#### 問2

圧倒的な軍事力を背景にメロスを隷属させたアテネの帝国主義的な政策の根底にあったのは、アルキビアデスが主張するような、自国を守るためには単に防衛するだけではなく他国を積極的に支配する必要があるという考え方だった。しかし、そのような考え方のもとで決行されたシチリア遠征が、皮肉にもアテネに悲惨な失敗をもたらす結果となったから。

#### 問3

二度の世界大戦をはじめとする悲惨な戦争経験にもかかわらず、優勢な軍事力を背景とした他国への侵略が現実には生じているだけではなく、各地で安全保障環境が厳しさを増しているなかで、トゥキュディデスが描くような出来事が人類にとって依然として過去のものとはなっていないから。

### 問題Ⅲ

#### 問1

ア) 羈縻統治（羈縻政策、羈縻体制なども可）

イ) 辺境地域の首領（支配者）の地位を承認し、名目的に中国王朝の版図に組み込むことによって、異民族居住地域の政治・経済・文化構造を改変することなく、間接的な統治・管理を可能にし、政治的・経済的・文化的な内地（中原）との交流を進めて辺境地区の統治を安定させるのが目的。

#### 問2

ア) 外戚

イ) 皇后・妃の子が皇太子となれば、皇后の父や兄妹は皇太子の外祖父・義父の立場となり、皇后・妃を通じて次期皇帝に強い影響を及ぼした。特に皇帝が幼少で即位した場合、外戚が皇帝の後見人となり、一族が高官に登用されるなど宮廷の実権を握ったから。

ウ) 王莽

エ) 新

#### 問3

ア) 多くは辺境地域において、兵士に耕地を開墾させて平時は農耕に従事させ、農閑期に軍事訓練を行い、戦時には軍事行動に従事させるもので、辺境の農業開発、食糧供給の安定化が主な目的であった。

イ) 中国西南地域は中原から遠く離れ、また同地の人民も異民族の首領の支配下にあったため、屯田を行うには、開墾以前に人と物のすべてを中原から運ばねばならず、また農地の経営が安定するまでは食糧をも中原から供給する必要があったため、コストの面で現実的とは言えなかった。

#### 問4

ア) 武帝（漢の武帝、劉徹）

イ) 下記のいずれか

河西（中国西北） 酒泉郡・武威郡・敦煌郡・張掖郡（のうちいずれか一つ）

朝鮮（朝鮮半島） 楽浪郡・玄菟郡・真番郡・臨屯郡（ 〃 ）

ベトナム・中国南部 儋耳郡・珠崖郡・南海郡・蒼梧郡・

鬱林郡・合浦郡・交趾郡・九真郡・日南郡（ 〃 ）

中国西南 益州郡・越巂郡・犍爲郡・武都郡・沈黎郡・汶山郡（ 〃 ）

(例) 河西 敦煌郡

朝鮮半島 楽浪郡 など

問5

文帝・恵帝時代に充実した漢王朝の財政も、武帝時代のたび重なる対外遠征によって急速に悪化し、国庫は空になった。塩鉄専売や均輸・平準などの経済政策が実施されたが、これらは当時台頭してきていた商人階層に大きな打撃を与えた。武帝の死後は桑弘羊ら経済官僚と儒家官僚との間にたび重なる政争が繰り広げられ、その隙を縫うように外戚・宦官などが政治を壟断するにいたった。上記のような財政難・政局の混乱により漢王朝が対外遠征・辺境経営への意欲と余裕を失っていったのに加え、前漢末期には儒者が政策の主導権を握ったことによって、異民族に対する差別意識が前面に押し出されたこともあって、このような異民族地域を郡県を廃止するという考え方が出現したものと考えられる。

問題IV

問1 a 乾隆            b チャクリ            c 阮福暎

問2 1 エーヤワディー            2 チャオプラヤ            3 メコン

問3 都：北京            宮城：紫禁城

問4 上座（部）仏教

問5 モン人

問6 <解答のポイント>

問題文の内容を読み取り、それを自分の持つ世界史の知識と関連させながら、18世紀～19世紀前半の東南アジアにとっての中国や中国人との関わりの持つ意味を説明する。